

西宮ユネスコ

2018.9 第149号

発行所：西宮ユネスコ協会（西宮市六湛寺町3-1 西宮市役所東館 人権教育推進課内 TEL 0798(35)3892・FAX 0798(36)1208）
 発行人：古 胡 博 巳 編集人：青 木 弘 子



「OPEN!」で誇れるわがまち・ 西宮市をめざして

西宮市長 石井 登志郎

私はこの4月に、第14代西宮市長に就任し、5月より西宮ユネスコ協会の名誉会長を拝命いたしました。身に余る光栄であるとともに、責任の重さに改めて身が引き締まる思いです。

西宮ユネスコ協会におかれましては、昭和37年（1962年）7月に設立以来、長年にわたり、書きそんじハガキの回収による世界寺子屋運動、国際理解講座、チャリティバザーの開催などの教育支援や、姉妹都市等との国際交流であるユネスコ世界児童画展など熱意あふれる様々な取り組みをされておられます。教育や科学、また文化を通じて、世界平和と人類の福祉の促進にご貢献いただいておりますことに厚く感謝申し上げます。

本市は、昭和58年（1983年）12月10日に平和非核都市を宣言し、市民の皆様とともに平和を愛する社会を育み、築くことを誓い、様々な平和啓発行事をとおして、平和の大切さ・命の尊さについて強く訴え続けています。

しかしながら、世界の各地では依然として地域紛争が続いており、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ憲章の理念

がますます重みを増してきております。

「戦争の世紀」といわれた20世紀から、「人権の世紀」である21世紀を迎えた今日、貧富の差、人種、宗教、性別、その他のあらゆる差別を許さないためにも、西宮ユネスコ協会の皆様をはじめ、市民一人ひとりの地道な努力で平和の文化を形成していくことが重要です。

現在、本市では、平成31年度を初年度とする第5次西宮市総合計画の策定を進めています。総合計画はこの先10年間の将来像を示すものですが、まちづくりは、さらに長期的なビジョンを掲げて取り組むことも必要です。

公共として果たすべき役割が何なのか、公の責任をしっかりと認識しながら、すべての西宮市民、つまり「オール西宮」で未来の西宮づくりを行っていきたいと考えています。それには、「OPEN!」であることでこそ、実現していくものと思います。「市民にOPEN!」「市役所をOPEN!」から、さらに進んだ「未来にOPEN!」への道を歩むことで、素晴らしい西宮市、誇れるわがまち・西宮市をめざしてまいります。

（西宮ユネスコ協会名誉会長）

2018 年度通常総会開催

西宮ユネスコ協会の 2018 年度通常総会は 5 月 26 日（土）、西宮市職員会館 3F 大ホールで開催されました。来賓として石井登志郎新市長、重松司郎教育長、上田幹社会教育部長、野田昭治人権教育推進課課長、中井崇裕人権教育推進課係長にご出席いただきました。

初めに挨拶で辰馬章夫会長は「教育は平和の基礎をなすもの。誰もが学び、読み書きができる基本的な人権が守られてこそ平和への道が開ける。『一年の計は穀を植うるにあり、十年の計は樹を植うるにあり、百年の計は人を育てるにあり』とある。教育はまさに百年の計だ。ユネスコ活動の中で教育は大きな比率を占めている。心技体、バランスのとれた人格の形成は子ども時代に築かれる。自立して生きることはもちろんだが、他人と協力して生きる力、多様性を尊重し共に生きるという心の持ち方、心の中に平和の砦を築くことを願っている」などと話されました。

次いで、石井市長、重松教育長から祝辞をいただきました。なお、石井市長には西宮ユネスコ協会の名誉会長を快くお引き受けいただきました。

その後、辰馬会長が議長となって、2017 年度活動報告・会計および監査報告、2018 年度活動計画案と予算案が審議され、すべて承認されました。



総会後のミニコンサートは、メゾソプラノの塩見典子氏、キーボード・鍵盤ハーモニカの井上絹恵氏による演奏で花の街、鞠と殿様、サン・トワ・マミー、アメイジング・グレースなど誰も知っている懐かしい曲を聴かせていただきました。アンコールで美空ひばりの「リンゴ追分」を歌っていただいた後、「川の流れるように」「浜辺の歌」を一緒に歌うなど、楽しいひと時を過ごしました。その後は恒例の懇親お茶の会が開かれました。

第 39 回阪神間ユネスコ協会 連絡会合同事業 in 芦屋

早野 潤子

第 39 回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業は、芦屋ユネスコ協会の担当で 2018 年 8 月 1 日（水）、芦屋ラポルテホールで開催されました。

今回の合同事業は、講師に稲畑汀子氏（日本伝統俳句協会会長）を迎え、「平和と俳句」と題した講演会でした。



2017 年に「俳句をユネスコ世界無形文化遺産に」と俳句 4 協会で提唱する推進協議会に参加され「俳句で世界を平和に」と活動されています。

「毎日の生活の中で日本語が話せたら俳句は作れる。日本語以外の国に俳句をどのように伝えるか世界に発信したい」

「日本には四季折々の生活があり、俳句には季節が大切。自然だけでなく、人間も自然の一部なので人間のことも詠むことができる」と話されました。

その後、各ユ協から投句された俳句を一句ずつ読み上げられ、丁寧に添削、講評していただきました。

最後に今回の合同事業を通して俳句をユネスコの無形文化遺産に登録する支援の輪を広げて行くことを参加者一同で賛同いたしました。（参加者約 120 名）

西日本豪雨被害にお見舞い

本年 7 月、西日本は豪雨に見舞われ多くの方が犠牲になりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

今回、日ユ協連から被害にあわれた構成団体の皆さんにお見舞金を送る呼びかけがあり、西宮ユ協ではこの呼びかけに対し 50,000 円を拠出しました。

日ユ協連からの報告によると、募金額は 7 月 31 日の締め切りで 78 のユネスコ協会やクラブ、6 個人から総額 2,965,350 円が集まり、特に被害の大きい広島、岡山、愛媛 3 県のユネスコ連絡協議会（県連）に対し 1 県連あたり 988,450 円を 8 月 6 日付で振り込まれたということです。被害にあわれた皆さんの一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

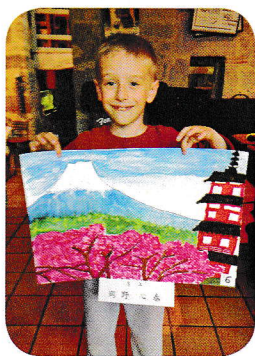
フランスで児童画展を



「第33回ユネスコ世界児童画展」は3月20日（火）～25日（日）に開催されましたが、児童画展終了後、西宮市の友好都市フランス・アジャン市の「西宮の友の会」から依頼があり西宮市内の子どもたちの絵40枚を送りました。これはロット・

エ・ガロンヌ県にある市と村で日本を紹介するイベントに出展するためのものです。

このうち6月3日にアジャン市の隣にあるボエ市でのイベントでは投票で、送った絵の中から好きな絵を選び、抽選で選ばれた2名にその絵をプレゼントされました。写真は抽選に当たった人たちが少年はルークという名前で西宮の友の会の会員のお孫さんだそうです。届いた写真は早速、市教委人権教育推進課を通じて絵を描いた子供たちに送りました。



世界遺産シリーズ

「中尊寺金色堂」

古胡 博巳

昨年7月、第73回日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台に参加した際、大会終了後、仙台から岩手県平泉まで足を延ばした。目当てはもちろん中尊寺金色堂と毛越寺である。

仙台から一ノ関までは東北新幹線、一ノ関から中尊寺へはバスで向かう。中尊寺のバス停前には、弁慶の墓と伝わる大きな石碑がある。多分、記念碑的なものと思われるが、さすが奥州藤原氏と源義経主従との関係が偲ばれる。

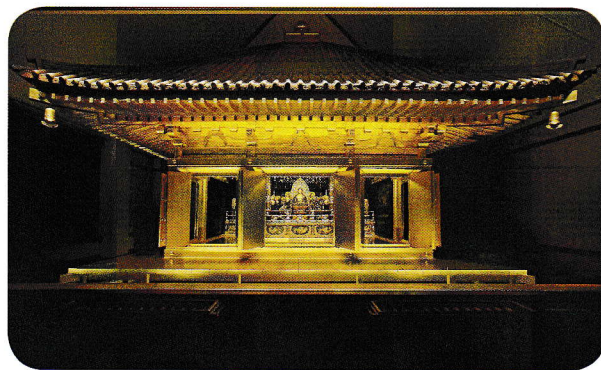
関山・中尊寺は2011年、「平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園および考古学的遺跡群」の一つとして世界遺産に登録された。争いのない、平和な奥州の実現を願った創建の思想がまさにユネスコの精神と共通のものといえる。

中尊寺の表参道に入ると、はなから急こう配の坂道が待っていた。途中に「月見坂」と書かれた小さ

な石碑が立っているが、たとえ月が出ていても下を向いて登るのが精一杯で月を見る余裕などなさそうだ。それでもうっそうとした杉木立の中を進んでいくと、急こう配が収まったあたりの右側に展望が開け、正面に「聖なる山」金鶏山、眼下に北上川を見ることが出来る。

その先少し行くと、右側に中尊寺の本堂が見える。中尊寺は奥州藤原氏初代清衡公の建立によるもので、11世紀後半に東北地方で続いた戦乱で亡くなった霊を慰め、東北に仏国土を建設しようという願いで建設された。ご本尊は、丈六（約3メートル）の釈迦如来坐像。本堂にあがって拝ませてもらう。このご本尊は新しいもので、もとの本尊木造阿弥陀如来坐像（重文）は、讃衡蔵（宝物館）にある。

中尊寺本堂を出て、さらに奥に進むと途中大日堂、阿弥陀堂などがあり、金色堂はその奥にある。堂はコンクリート造の覆堂の中にあってガラスケースに収められている。平面の1辺が5.5メートルの小さな仏堂だが、まさに燦然と輝く金の仏様たちだ。内部は金だけでなく螺鈿細工や象牙、宝石によっても装飾されていてその美しさはたえようもない。しかし、須弥壇の中には初代清衡公をはじめ、毛越寺を造営した二代基衡公、源義経を奥州に招いた三代秀衡公、さらに四代泰衡公の亡骸が今も納められていることを思うと厳粛な気持ちになる。



金色堂を出て少し行くと元の金色堂の覆堂（重文）も残されている。また近くには江戸時代にこの地を訪れた松尾芭蕉翁の像があり、傍らには「五月雨の降り残してや光堂（ひかりどう）」の句碑もある。讃衡蔵で数多くの文化財を拝観する。寺域にはこのほか能舞台や弁財天堂、薬師堂など見るべきものが多い。これらをできるだけ見て回り、当地へはまた来たいとの思いを抱きながらお山を下りて毛越寺に向かった。

（金色堂内部の写真は、中尊寺さまのご厚意によりいただいたものです。有難うございました。）



事務局だより

☆高校文化祭で「書きそんじハガキ」のお願い

7月9日(月)、10日(火)西宮市立西宮高校の文化祭に参加、「書きそんじハガキキャンペーン」を行いました。「世界寺子屋運動のリーフレット・裸足で水運びをするほほえむ少女」の前で、カンボジアでは貧しさから学校に行かれない子ども達がいること、11枚の書きそんじハガキで1人の子どもが1ヶ月学校に行かれることを説明すると、高校生は少し驚いた反応を見せました。書きそんじハガキ1枚から国際協力の教育支援に繋がることを伝え、チラシを配布し回収協力をお願いしました。1日目は生徒の日、2日目は家族、関係者が来校し文化祭は無事終了しました。今年も文化祭に参加できましたことは高校の担当の先生方、事務局の皆様のご尽力によるもので厚く感謝申し上げます。



☆書きそんじハガキ・募金協力者(2017.4～2018.3)

ハガキ

〔幼稚園〕用海・山口・上ヶ原・生瀬・鳴尾北・付属あおぞら・高木・高須西・大社・鳴尾東・越木岩・名塩〔小学校〕鳴尾・津門・西宮浜・北夙川・小松・上ヶ原・高須・用海・東山台〔高校〕市立西宮高校〔養護〕市立西宮養護学校〔公民館〕鳴尾・若竹・今津・高木・越木岩・用海・神原・高須・南甲子園・西宮浜・上ヶ原・山口・中央〔支所・SC〕甲東支所・アクタ西宮ステーション・上甲子園SC〔図書館〕中央〔個人〕岡島捷子・鶴巻和代・堂野三千彦・小林・木村幸子・米田有紀・高見恒二・酒谷三重子・堤博美・サクラアートミュージアム・長田徹・段林裕子・田中美代子・森本早紀・宮本皆子・伊藤彌生・柳正之 他

募金

南健一郎・西口きよ子・美容室PARTY・下仲順子・ハッピーマザー・82,880円分の切手 他

世界寺子屋運動にご協力いただき有難うございました。(敬称略)

協力者よりのお便り

いつもお世話になりありがとうございます。書きそんじハガキがまたたまりましたので送らせて頂きます。お正月用の50円切手も未使用のものがわずかではありますが出てきました。何かのお役に立てればうれしいです。 辻倉

協会日誌

(2018年4月～
2018年9月)

- 18.4.5 英語教室第Ⅰ期開講 (プレラ4F)
- 4.22 近畿ユネスコ協議会委員会 (クレオ大阪中央)
- 5.26 2018年度通常総会・会員懇親お茶の会
「ミニコンサート」
出演 メゾソプラノ 塩見 典子氏
ピアノ 井上 絹恵氏
(西宮市職員会館3Fホール)
- 5.30 2018年度兵庫県ユネスコ連絡協議会総会
(園田学園女子大学大会議室)
- 6.16 第69回日本ユネスコ協会連盟総会
(東京・朝日生命大手町ビル)
- 7.7 第74回日本ユネスコ運動全国大会 in 函館
～8 「広げよう平和、共生の心
～北の大地から次世代へ～」
(函館芸術ホール)
- 7.9 西宮市立西宮高校文化祭参加
～10
- 7.20 阪神間ユネスコ協会連絡会①
(宝塚市立男女共同参画センター)
- 8.1 第39回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業
講演「平和と俳句」
講師 稲畑 汀子氏(日本伝統俳句協会会長)
(芦屋ラポルテホール)
- 8.5 近畿ユネスコ協議会拡大委員会
(大阪市立総合学習センター)
- 8.30 さくらFM「西宮ユネスコ協会紹介」の
収録・放送 (さくらFMスタジオ)
- 9.6 英語教室第Ⅱ期開講 (プレラ4F)
- 9.末 会報149号発行

—今後の催しの予定—

- 18.10.5 坂田記念セミナー
「高麗青磁・ヒスイのきらめき」
(大阪市立東洋陶磁美術館)
- 10.27 近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 彦根
(彦根ビューホテル)
- 11.4 第46回ユネスコ・チャリティーバザー
(夙川公民館)
- 11.10 にしのみやふるさとウォーク2018
(甲陽園西山公園～甲山自然環境センター)
- 11.16 阪神間ユネスコ協会連絡会②
(西宮市男女共同参画センター411号室)
- 11.17 第46回日本ユネスコ協会連盟評議員会
- 11.24 研修見学会「大阪の歴史資料館を訪ねて」
- 19.1.10 英語教室第Ⅲ期開講
- 1. 新年理事会、懇親会
- 1. 文楽鑑賞会
- 1.19 第47回日本ユネスコ協会連盟評議員会
- 2. 第23回西宮国際交流デー
- 3. 国際理解講座
- 3. 阪神間ユネスコ協会連絡会③
- 3. 第34回ユネスコ世界児童画展・市教委共催
(市民ギャラリー)
- 3.末 会報150号発行